

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふつうに暮らせるしあわせ」の理念に基づき、ホームでの生活を支援している。	事業所独自の理念を掲げ、理念の実践ができるよう職員毎に個人目標を6か月ごとに設定し、達成度の振り返りも行っています。	定期的に理念を確認する機会を設け、職員に理念の浸透ができるよう検討されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物や散歩に出掛け挨拶や会話をしている。また、町内のふれあい活動に参加したり、クリーン活動の参加を利用者と共に行っている。	町内の方に清掃ボランティアに来ていただいたり、中学生の体験学習を受け入れたり、町内のふれあい活動や防災訓練にも参加するなど、地域との交流が心がけられています。	地域の方にホームにも来ていただき交流の機会を持てるよう、検討される事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の自主防災訓練時、車椅子の貸し出しを行った。また、中学生職場体験事業で認知症の研修を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の地域との連携について話し合いを行い避難訓練に地域の方の参加を呼び掛けた。また、町内の活動にグループホームでも参加できるように検討した。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、ご家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な連絡はないが、必要時連携をとっている。24年の介護保険改正時は運営推進会議で市担当者より地域密着型サービス、介護保険サービスについて話を伺った。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての定期的な研修を行うとともに安易な行動抑制にならないように会議で検討している。	事業所にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、玄関の施錠も夜間のみとし、言葉の遣い方についても職員会議で指導を検討するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の研修を定期的に行うとともに、ケガ、アザがあればケースに記入している。また身体面だけでなく言葉使いにも気を付けている。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に説明を行う他、必要時は契約書を利用者家族共にもう一度確認し説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や運営推進会議での意見交換を行っている。また、年一度家族アンケートを行っている。他、家族来所時は積極的に報告を行い連携を取っている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、年に1度はご家族にアンケートを送り、意見・要望の確認を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月各1回、全体会議、ユニット会議、運営委員会を行い意見要望を聞くほか年2回事業所での面談を行っている。また、日頃から意見・要望を聞くようにしている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の全体会議やユニット会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、年に2回は管理者が職員との個人面談の機会を設け、率直な意見を収集できるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務による各種手当、処遇改善加算の算定、資格取得による手当などがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練等で内外部研修の参加や年2回評価で自己を見直す機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修の実習生の受け入れやデイサービスでの行事に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時、本人の状況確認と合わせて家族、担当ケアマネ、他サービス事業所など幅広く情報収集している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を聞き、積極的に情報提供を行う。分からないことや不安に感じていることを丁寧に説明を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問の段階で情報をもとに、グループホームの利用が適切かも含め判定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上で、掃除や干し物、調理、買い物など本人が出来ることは職員と協力して行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診・外出・季節に合わせた衣類の交換などご家族にお願いしている。	事業所広報を月に1度送付しているほか、ご利用者の生活の様子や身体状態の様子をまとめお送りしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の面会・外出の支援をするほか、地域の市に出掛けたりしている。	ご家族にもご協力頂き、直江津の朝市に出かけたり、馴染みの床屋へ出かけたり、お墓参りに出かけたり、特別養護老人ホームに旦那さんに面会に出かける等、今までの関係継続支援に努めています。	月に1度送付している事業所広報には職員の退職状況も記載し、ご家族に伝えられることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人が共同生活の中での役割を持っている。また共同作業をする中で良い関係性を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば相談・支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動・表情、家族からの情報に本人のしたいこと・気持ちの把握に努めている。また必要時カンファレンスを行い本人の気持ちの共有や検討を行っている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・知人から情報を集めたり、本人の話より暮らしの把握を行っている。必要あれば以前利用していたサービス事業所に問い合わせる。	契約時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活暦やなじみの暮らし方を確認しています。	定期的にあセスメントシートを更新する機会を設け、職員間でも情報の共有ができるよう検討される事を期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・申し送り・連絡ノート・日誌等で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要あれば月1度ユニット会議のカンファレンスで介護計画を見直すほか長期・短期目標期間に合わせモニタリングを行っている。家族には評価期間ごとに説明を行い意見をお聞きしている。	基本的に短期目標3ヶ月、長期目標6か月の期間で介護計画を作成し、必要があれば月に1度のユニット会議のカンファレンスで介護計画を見直しを行っています。	調査時点でご利用者によっては、サービス担当者会議が行われず、意向の確認や介護計画の説明も行われていない方もいましたので、改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、職員の気づき、本人の言葉をそのまま記入するようにしている。仕事開始時、必要時ケース記録を読み返しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じた対応を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市で行われている紙おむつの助成・布団乾燥サービスの利用、低所得者の負担限度額助成等を必要なサービス利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医への受診が原則となっている。医療機関への情報提供は家族了解の基で行っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた書類を渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はない。必要時はかかりつけ医との連絡をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に情報提供・治療内容の確認を行っている。また退院時は受け入れ体制についての説明や今後の方針について話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りを行っていない。問い合わせ・契約時に説明を行っている。ホームでの対応が困難になった時に早い段階で家族と相談し、家族の意向を確認した上で他施設への申し込みを支援している。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救急法の講習や緊急時の対応マニュアル作成を掲示している。	毎年1回はAEDの使用や心肺蘇生の講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、職員、家族、地域の方と会議で検討している。他、地域の自主防災訓練に参加している。	定期的に夜間を想定した避難訓練を行っており、地域の方にも参加して頂いています。また、前回の課題であった災害時に備えた非常用の食品や水も確保されていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときにノックや挨拶、言葉がけに注意している。入浴・トイレ使用時のプライバシー保護に努めている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもすべてのご利用者に確認を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立を決めるとき、利用者に希望をお聞きしたり、買い物で品物を選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体で行われる日課の他は本人の自由な時間になっている。その中で調理をしたり、買い物に行ったりと本人の希望する援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は本人に任せている。支援が必要な方には本人に確認し服を選んでいる。散髪などは職員と美容院・床屋へ出掛けてカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、買い物、調理、盛り付け、配膳、後片付け、食器拭きなど能力に応じて食事づくりに参加し、職員も同じテーブルで会話しながら楽しく食事しています。	ご利用者にも出来る範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもきゅうりやトマトなどの野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。月に1度は外食の機会を持ち、近隣のファミリーレストランなどにご利用者と出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に合わせて、形態、量、材料の変更を行います。こまめに水分補給が出来るようにお茶の時間を2回設けています。毎食の食事量に記入を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っている。口腔内の点検が必要な方には口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方には排泄パターンを確認し、トイレでの排泄が出来るように支援している。他、排泄確認が必要な方には確認を行っている。	入居時には全てのご利用者の排泄パターンを把握し、支援が必要な利用者には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給が不足しないようお茶の時間を設けている。不足しがちな方には声掛けを行い、散歩や体操などの運動も毎日行っている。便秘時には主治医と相談し下剤を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に1度の入浴になっているが希望や皮膚状態に合わせて毎日の入浴もあります。拒否の強い時には本人の状況に合わせて声掛けを行っている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。ご利用者と一緒に日帰り温泉に行き、入浴を楽しむこともありました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、なるべくホールで過ごしますが、本人の希望でいつでも居室に入り休むこともできます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングしいつでも確認できる様になっています。主治医にお願いして出来る限り1包化で処方をお願いしています。間違いのないように表を作り内服時確認します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味に合わせて塗り絵やパズル、漢字ドリル、縫い物が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は、なるべく全員の方が散歩や買い物に行けるように支援しているが、外出を嫌がる方もいる。状況に合わせて声掛けしている。また月1回ユニット全体で季節が感じられるように努めた。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、散歩へ出かけたります。また季節に合わせたお花見やあじさい見学、ぶどう狩りや紅葉見学などの外出も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で個々の預り金を保管している。本人が希望があれば職員と出掛け商品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機電話を貸出し居室でかけることが出来たり、本人に荷物があつた時はお礼の電話を職員と行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンからホール全体に見渡せるような作りになっている。トイレ、浴室は家庭の一般的な広さになっている。行事の思いで写真を貼ったり、季節の壁飾りをするようにしている。	居間と食堂、オープンキッチンがワンフロアとなっています。テレビを囲むようにソファがあり、季節に合わせた飾りをしたり、行事の写真を張るなどして居心地良く過ごせるような配慮がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でテーブルを囲んだり、ソファに座りテレビを観たり自分の思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に入る範囲で使いなれたものを持ち込んでいる。自分で塗った塗り絵や写真などを壁に飾ったりしている。	居室には、ベッドやテレビ、机など、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	調査時点で居室の表札の上などに、埃が気になる場所もありましたので、これまで以上に清掃に心がけるようにされることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせ、居室入口には本人が判るように名前や花、ぬいぐるみを置いたりしている。		